

事業名 CD	01060202002	特定鳥獣害管理捕獲事業
細分化した事業名		
事業担当課室 CD	300100	農林課
		整理コード*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり
	中項目	環境と調和した農林業の振興
	小項目	農林業の振興
関連する個別計画等		根拠条例等
関連する事業		鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	有害鳥獣による農作物被害を最小限に抑え、農家の生産意欲向上を図るために、捕獲事業を実施し、頭数管理を行う。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	鳥獣被害にあっている地域(市内全域)
これまでの改善経過	猟友会との有害鳥獣捕獲業務委託により、適正な捕獲事業が実施されおり、特にシカ対策の効果が上がっている。
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 ■委託 □補助金 □その他()</p> <p>○捕獲業務委託により実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託料 サル=20,000円 シカ、イノシシ=12,000円(いずれも1頭当り) H19年度、H20年度=地元猟友会と委託契約 H21年度、H22年度=韮崎市鳥獣害防止連絡協議会と委託契約(猟友会も会員) <p>○実施要領: 通常の猟期内に限られている狩猟行為が、管理捕獲事業では年間を通して実施できる。3か月に一度捕獲頭数の許可が必要</p>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	捕獲事業による頭数管理が獣害を抑制し、農業意欲の向上につなげる。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	8,355	8,250	7,744
財源内訳	国庫支出金		0	0
	県支出金	2,625	4,125	3,872
	市債			
	その他			
	一般財源	5,730	4,125	3,872
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00 0.20	0.13	0.19
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	1,382	887	1,277
D	総事業費(A+C) (千円)	9,737	9,137	9,021
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	282 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	捕獲申請（許可）数	（件）	4	3	3
	目標捕獲数（全体）	（頭）	250	450	512
成果指標	捕獲鳥獣数（サル）	（頭）	246	150	200
	捕獲鳥獣数（シカ）	（頭）	112	216	252
	捕獲鳥獣数（イノシシ）	（頭）	35.00	84	60
	全体捕獲数	（頭）	393.00	450	512
効率指標	1頭当りのコスト	総事業費／捕獲頭数（円）	24,776	20,304	17,619
	捕獲頭数目標達成率	予定頭数／実績（％）	157	100	100

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 有害鳥獣事業の追い払いとは別に、個体数を確実に減らせるので妥当であるといえる。
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 獣害対策として個体数を減らすためには、今以上に駆除量を増やす必要がある。
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 猟友会に適正な事業実施を任せているが、更なる効率性の向上及び効果的な対策が必要である。

総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化（コストを集中的に投入する） <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える） <input type="checkbox"/> 効率化（結果単位あたりのコストを下げる） <input type="checkbox"/> 簡素化（事業の規模や内容を縮小する） <input type="checkbox"/> 統廃合（他の事業と統合する、または廃止する） <input type="checkbox"/> 現行どおり

改善・改革案	改善・改革の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）		
	(1) 中長期的 電気柵管理会や関係機関との連携の強化。継続して個体数の削減が必要。	(2) 24年度 各地区の被害状況を反映した捕獲管理計画の見直しを図り、限られた捕獲枠の中で効果的に事業を行えるようにする。	(3) 23年度 1年を通じた捕獲管理計画の見直しが必要、地元や猟友会の意見を反映したい。
	22年度の改善計画 捕獲頭数の実績を見極め、一般財源の負担の低減に努める。		
22年度の改善結果 猟友会との連絡を密にし、捕獲頭数の把握に努めたので、目標捕獲数を越えることなく事業の実施が図れた。			

市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)
 猟友会員が事業目的を理解し効果的な活動を行うべく事業を推進していく。

課長所見	個体数を直接管理できることは、獣害対策として非常に効果があるが、より効果的に捕獲が行われるよう、地区別の被害量にあった捕獲枠を割り当てることなど、改善策を検討していく必要がある。
------	---